

# サポート

No. 214

令和8年3月13日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

## 令和7年度特別支援学校生の職域拡大・職場定着促進事業

これまで、学校が事業所に実習依頼をすると、「どのような業務を任せたら良いかわからない」「障害のある生徒への接し方や支援方法を教えてほしい」という声を聞くことができました。また、生徒の進路選択については、「生徒たちが知っている業種や職域が限られており、狭い範囲で進路選択をしている」という現状がありました。

そのため、特別支援教育課では、特別支援学校生の職域拡大や、企業等に対する障害者理解の推進を図ることを目的に、令和5年度より本事業を継続してきました。

今年度は、事業所での生徒に応じた仕事内容と支援方法等についての情報提供、事業所への障害理解の推進に重点を置き、ゆり支援学校と大曲支援学校を事業推進校として本事業に取り組みました。その主な取組を紹介します。

### 職域拡大推進員の配置

事業推進校2校に配置した職域拡大推進員は、推進校の特別支援学校教員と連携して就労支援を行いました。事業所に対しては、生徒一人一人の実態やニーズを十分に把握した上で、生徒の実態に応じた仕事内容や支援方法についての情報提供を行いました。また、校内では、「現場実習に向けた心構え」「会社が求める人物像」などをテーマとした職業講話を行い、生徒の働く気持ちを高めました。



【職域拡大推進員による面接練習】

### 就労支援促進会議の開催

各推進校で教育、労働・福祉関係機関、事業所団体等の関係者による就労支援促進会議を開催し、職域拡大や職場定着に向けた具体的な方策について、協議を行いました。

#### 要点

- ・**職域拡大に向けて**：学校と事業所が互いの取組を知る第一歩として、実際の教育活動を見学する場を設けることで相互理解を図ることができる。特別支援学校生に対して、特別な仕事を新たにつくるのではなく、生徒の強みを生かして、清掃等の既存の業務を任せることで、事業所にとっても業務の効率化と働きやすさの向上につながる。
- ・**職場定着に向けて**：事業所内に相談できる環境があることが安心して働くことにつながる。信頼して相談できる「キーパーソン」の存在が職場定着の鍵。

### 学校見学会の実施

各推進校で事業所の方々を対象に、作業学習の見学や体験をする学校見学会を開催しました。参加者の作業体験も取り入れ、染色や縫製、ビルクリーニングなどの各作業班で、高等部生が作業手順や注意点を説明し、見本を示しました。

事業所の方からは、「生徒の教え方が丁寧で、自分の仕事に誇りをもっている姿に感銘を受けた」「実際に作業の様子を見ることで、本人の得意なことを生かした配属先や業務内容を検討できる」等の感想をいただきました。



【参加者による染色班の体験】

## 音楽生成AI「SUNO」を活用した音楽づくりの授業～能代支援学校

音楽生成アプリ「SUNO」を使った、小学部6年生の生活単元学習の授業を紹介します。本単元は、自分たちで作詞・作曲したオリジナルの曲を作ることで、修学旅行の日程を覚えたり、修学旅行に対する期待感などの自分の気持ちを歌にして表出したりすることをねらいとしています。

「SUNO」は、テキスト入力だけで歌入りのオリジナル楽曲を自動生成します。また、ジャンル、テンポなども指定することができます。今回の授業では、事前に行った調べ学習で得た情報と、日程表、修学旅行に対しての自分たちの気持ちを基に、作詞・作曲しました。

最初に、修学旅行に対しての今の気持ちを確認し、どんな曲にしたいか話し合いました。「修学旅行はみんなで行くから明るい曲がいい」「早い曲の方がわくわくする！」など、様々な意見が出ました。

次に、修学旅行で実際に訪れる場所や、自分たちの気持ちを歌詞にしていきます。どこに行って何をするのか、日程表を見て確認しながら、みんなで歌詞を作りました。

最後にみんなで決めた歌詞、曲調を「SUNO」に入力して完成です。1分ほどで2曲生成されます。生成された曲は、歌詞も曲調も変更して生成直すことができます。「歌詞を入れると、自分たちの歌みたい！」生成された曲を聴いた瞬間の笑顔と驚きが印象的でした。

児童は、AIを使って自分の気持ちを曲にして表出する体験を得ることができました。今回の授業を通して、AIは、効果的に活用することで、表現や表出の手助けになることが分かりました。学びの手立てとしてのAIの活用の可能性を、今後も追求していきたいと思います。



【イラストや写真を選んで作詞】



【曲調や歌詞を入力して生成】

(能代支援学校 教諭 嶽石 涼)



二次元コードをスキャンすると、今回作成した曲の視聴ができます。

## 視線入力装置を活用した学習の実践 ～秋田きらり支援学校

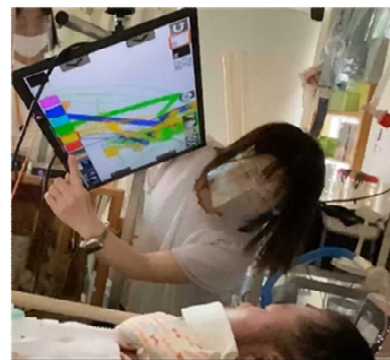
自立活動を主とした教育課程で学習している高等部2年の女子生徒を対象とする、視線入力装置を活用した実践を紹介します。使用したソフトはEyeMoT Sensoryです。

まず、「わくわく美術展の作品を作ろう」という単元名で、イラストを描きました。表現する楽しさを体感することをねらいとしました。

本生徒が得意とする眼球の動きにより、縦の線を描きました。教師が色や線種を切り替えると、それに応じたイメージをもち、眼球を上下に動かして描線している様子が見られました。

次は、「してほしい、わたしの『うれしい』こと」という単元名で、友達と一緒にしたいことを視線入力装置で選択肢から選び、手紙を作りました。手紙の背景となる挿絵にすることをねらいとし、イラストを描きました。教師が画面全体を使って描くことを促したことで、本生徒が苦手である画面右下にも視線を向けて、縁取るように眼球を動かしました。さらに、眼球を微細に動かして、縁取った中に色を塗ろうと画面を注視したり、色を塗り重ねたりしました。

生徒は、同じ活動であっても、描く目的を意識し、眼球の動かしかたを変えるなどして、思いを表現できたことから、視線入力装置は自分の意思を伝えるツールの一つとしてとても有効であると考えます。視線入力装置の活用に留まらず、生徒が自分の表現したいことを可視化して伝えられるような支援の方法を見つけていきたいと考えています。



【わくわく美術展の作品を作ろう】

(秋田きらり支援学校 教諭 簾内 香緒里)

## インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「通級による指導実践研修」は、提示授業に基づく協議等を地域の通級による指導担当教員を含めて実施することにより、担当教員の実践的指導力の向上とともに、対象児童生徒の在籍学級担任との連携や地域の特別支援教育の推進を図る研修です。今回は湯沢南中学校の通級による指導実践研修において、ICTを効果的に活用した取組を紹介します。

### ICTを効果的に活用した通級指導教室の取組 ～湯沢市立湯沢南中学校の実践

#### ○単元名

「なりたい自分に近づこう～計画する力と助けを求める力を身に付けて～」

#### ○指導の目標

- ・計画的に学習を進めるために、やるべきことの優先順位を考える力を身に付ける。
- ・学習や生活の中で困ったことがあったときに、正直に説明して助けを求めることができる。

#### ◎指導の工夫

##### 1 生徒の主体性につながるWebアプリの活用

生徒は、Webアプリ（授業者作成）で自分の状態や目標に応じて1時間の学習計画を立て、課題が終わるごとに取組状況をWebアプリのグラフで確認しました。生徒の主体性と学びの可視化につながっています。



【授業者が作成したWebアプリ】

##### 2 生成AIを相手役にした取組

友達の誘いや依頼の上手な断り方についての学習では、生成AIを相手役にして、ロールプレイを行いました。生成AIはこれまでのやりとりの内容を記憶しており、本時の場面設定に生かすことができました。通級指導教室で学習した内容を実際の場面で実践し、次の学習につなげられるよう、段階的な指導となっています。



【音声入力している様子】

##### 3 生徒、通級による指導担当者、学級担任、家庭をつなぐ工夫

生徒の自己評価と教師による評価を音声入力し、生成AIに要約させました。授業終了後、要約した記録をすぐに印刷し、学習と指導の記録として学級担任と家庭に渡します。教師の記録作成の負担が軽減され、生徒の学びの状況をすぐに共有できるツールとなっています。

(南教育事務所雄勝出張所 指導主事 阿部潤子)



第43回秋田県学校農園展において、県立栗田支援学校が優秀賞、  
県立能代支援学校が優良賞を受賞しました。

県立栗田支援学校、県立能代支援学校のみなさんおめでとうございます。

